

被災地の人生 マンガで描く

早大学院出版「前に進む姿、忘れないで」

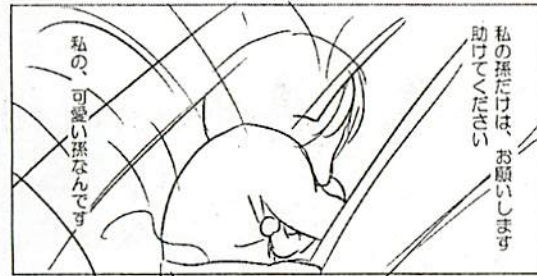
震災と向き合う被災地の人々の様子を
描いた短編マンガ集「いつか、菜の
花畑で〜東日本大震災をわすれない〜」
が扶桑社から出版された。著者は
早稲田大学大学院生の石沢美穂子さん
(27)。「みすこそ」のペンネームで描
き続ける石沢さんは、印税収入の全額
を被災地に寄付するという。



石沢美穂子(ペンネーム・みすこそ)さん

石沢さんは公認会計士を
目指して勉強中。マンガは
ずっと趣味で描いており、
自分のブログで公開してき
た。

震災発生後の3月末、一
つの新聞記事が目にとまっ
た。孫を抱きかかえたまま
遺体で見つかった祖母。津
えた石沢さんは5月末、岩



「いつか、菜の花畑で
〜東日本大震災をわすれない〜」から

手県大穂町を訪れ、ポラン
ティアとして汚泥やがれき
の撤去を手伝った。子ども
たちが遊んでいた河川敷を
きれいにして菜の花を植え
る活動をしている金山文造
さん(62)からは、こんな言
葉をかけられた。「自分た
ちが前に進む姿を見ていて
ほしい。だから忘れない
で。将来、きれいな菜の花
が咲く様子を見に来てくだ
さい」

石沢さんは、大学を卒業
して会社勤めをしていた時
期に、自転車の転倒事故で
それまでの半年間の記憶を
失った経験がある。記憶は
今も戻らない。「震災と向
き合った一人ひとりが何を
感じていたのか。それぞれ
の人生の物語を描き、記憶
に留めておきたい、と強く
思いました」という。

本はA5判158頁。税
込み1000円。問い合わせ
せは扶桑社(03・54403
・8870)へ。
(仲田一平)